



弓削高等学校

<https://ehm-yuge-h.esnet.ed.jp/>


コロナにも負けず、夏の暑さにも負けず
弓削高校は今日も前進しています！

体験入学会で中学生にアピール！

8月4日に体験入学会が行われ、入学者数増加に向けて生徒主体で様々な取り組みが行われました。学校説明や授業体験を生徒主体で行うことで、中学生にとっても魅力的な体験入学会にすることができました。また、今回はオンラインでの参加ができるように工夫し、県外からの入学生増加に向けて力を尽くしました。



運動会に向けて！

運動会が間近に迫っている中で、優先事項は運動会練習よりもグラウンドの草を抜くことです。弓削高校では運動会前の草引きが毎年の恒例行事となっています。教員と生徒が協力して、自然の脅威に立ち向かう姿は非常に感動的です。



本年度文化祭について

11月1日（日）開催予定の文化祭は、コロナウイルス感染症対策のため、入場を制限して開催させていただきます。詳細につきましては、ホームページを通じてお知らせいたします。

島親募集！

チームで休日に食事等の面倒を見ていただける皆さまを募集します

連絡先 ☎ 77-2021
弓削高校 教頭 渡邊

かみじま郷土話 3

瀬戸内海の中央に浮かぶ魚島



亀居八幡神社の宝篋印塔



曾根 大他 教員課

車も電車も無い時代、船を使って畿内にアクセスできる瀬戸内海は、昔から交通の要として機能していました。芸予諸島の島々は、瀬戸内海を航行する船人にとって重要な寄港地であり、様々な人や物が集まる場所として発展しました。魚島で見つかったものや遺されたものを見るとその様子がよくわかります。

魚島の大木海岸には、大木遺跡という古墳時代の遺跡があります。遺跡からは、製塩土器・石製模造品・小型青銅鏡・剣形鉄製品や鉄鉋（てっぴ）などの豊富な遺物が採取されています。これらに共通した遺物が見つかった遺跡としては、今治市大島にある火内遺跡や松前町の出作遺跡があり、どちらも祭祀遺跡としての性格を持つ遺跡であると考えられています。大木遺跡においても、航海安全を願い、神事などが行われていたのかもしれない。

また、亀居八幡神社にある宝篋印塔は、南北朝時代の武将である篠塚伊賀守のお墓であると伝わっていたもので、島の人々によって大切に保存されてきました。鎌倉時代末期の特徴を持つ大変貴重な文化財であるため、国指定重要文化財に指定されています。

このように、魚島には長い歴史の中で古く貴重なものがたくさん遺されています。瀬戸内海を航海し、大自然を相手に生きた昔の人々にとって、瀬戸内海の中央に浮かぶ魚島は、心身ともに安らげる大切な場所となっていたのかもしれない。



大木遺跡がある大木海岸



弓削商船高等専門学校

<http://www.yuge.ac.jp/>


感染対策を行いながら学校生活がスタート

9月1日より対面授業を再開
遠隔授業も継続

9月1日（火）から対面授業と遠隔授業を同時に行い、夏休み明けの授業を再開しています。白砂寮は段階的に開寮し、対面授業を希望する学生が帰寮しました。

学校や学寮の運営は「新型コロナウイルス感染症対策指針（本校HP参照）」に基づき、学生・保護者・教職員が一体となり、これまで以上に感染対策を行いながら学生の日常を取り戻します。

学生対象ストレス・マネジメントのオンライン研修

本校では、新型コロナウイルス感染症の影響によって4月から自宅学習が続いています。平時とは異なる学習環境であり、心身

の不調が生じることは、ごく自然なことです。本校には学生相談室の相談員（教職員）やカウンセラーが在籍しており、今回オンラインで学生へのストレス・マネジメントに関する支援を行いました。YouTubeによるオンライン研修を6月と8月に2回配信しました。

●ストレス対処方法

- ① 現在の状況は、心にとっても負担です。
- ② しんどくなったり、落ち着かない気持ちになるのは、ごく自然なことです。
- ③ ぜひ、心の健康に大切な「ストレス対処方法」を意識して、通じてください。

このオンライン研修では、不調が生じることは自然なことであるという「ノーマライゼーション」や「スト

レス対処方法」について紹介しました。精神的健康の保持増進を学ぶ機会ができました。

プロジェクト贈呈式



8月4日（火）本校においてプロジェクトの贈呈式が行われました。このプロジェクトは美賀賀海運株式会社および株式会社愛媛銀行三島支店からの教育機関寄附型私募債によるものです。プロジェクトは商船学科棟改修工事の仮教室での授業などに使用しています。

島おこし協力隊活動報告

空き家調査を行っています

島おこし協力隊の活動期間中に完遂したいことのひとつに、「空き家調査」があり、今夏、その調査を生名島から始めることができました。調査では住居を一軒一軒まわり、ヒアリング等で得た情報も加えて「空き家」を特定し、外観から判断できる範囲で各「空き家」のカルテを作成します。上島町における「空き家」問題を、自分の目と足で確かめています。

日々の調査では、自治会組織と地域の皆様のご協力を得て、「空き家」について教えていただいています。特に商店では、地区で起こる様々な出来事を教えていただいています。敷に覆われてしまった住居への道なき道でセミに体当たりされたり、「空き家」になっ

たと聞いていた住居に学生が引越してきていたり、毎日が驚きと発見の連続です。「空き家」の近所に住む方から、「今の所有者は、どこにいるのか、わからない」とお聞きすることもしばしばです。

調査カルテでは「空き家」を、「A 利活用可能」、「B 修繕すれば利活用可能」、「C 大幅な修繕もしくは建て替えが必要」、「D 倒壊などの危険性も有り」と分類します。「空き家」をどうするのかは、もちろん所有者が決定することです。ですが「空き家」は、移住希望者に売却し、あるいは貸し出して、地区の成員を増やす「資源」として活用できる一方で、そのまま放置すれば老朽化して、解体撤

去しなければならない“やっかいもの”にもなり得ます。「空き家」問題は所有者の問題であると同時に、地域社会の問題です。これからは調査と並行して、地域にある「空き家」をどうしていくのか、地域の皆さまとお話する機会をつくっていただければ、と思っています。これからも、島内をうろうろとし、「空き家」についてお訪ねいただければ幸いです。



島おこし協力隊
平田 浩司